



認知症ケア高度化のためのマルチモーダルケアスキルに見える化

静岡大学提供
作成日 2016年 3月10日
更新日

 	研究者氏名 たけばやし よういち 竹林 洋一 いしかわ しょうご 石川 翔吾	所属機関 静岡大学・情報学部	関連キーワード(複数可) 認知症情報学、マルチモーダルインタラクション、脳、加齢、行動、学習
主な研究テーマ <ul style="list-style-type: none"> 認知症ケアのスキル表現に関する研究 認知症の人の情動理解モデル構築に関する研究 認知症ケアの学習支援に関する研究 		主な採択課題 <ul style="list-style-type: none"> 若手研究(B)平成27～28年度(配分総額:4,030千円) 課題名「認知症ケア技術高度化のためのマルチモーダル認知症コーパスの構築と利用」 基盤研究(B)平成25～27年度(配分総額:17,680千円) 課題名「認知症の人のケア高度化に向けたマルチモーダル感情行動コーパスの構築」 挑戦的萌芽平成24～25年度(配分総額:3,900千円) 課題名「マルチモーダル加齢行動コーパスの深化と利用に関する研究」 	

① 科研費による研究成果

医療・介護現場では認知症の対応に苦慮しており、認知症対策は国家レベルの喫緊の課題である。我々は情報学の特長である繋ぐ技術や表現する技術がこの課題を解決できると考え本研究に着手した。本研究では、ケア現場を助けるためにケアの達人の経験知となっている認知症ケア知の形式知化のための分析基盤システムを構築し、認知症ケアスキル学習支援に展開した。


—分析基盤システムを活用することにより、ケアスキルの見える化を実現し、スキルの実践度を数値化することが可能になった。EVC (Evidence Based Care) の新しい方法論を確立した。

—認知症ケア学習コンテンツにおいて、分析基盤システムを連動させることにより、ケアの上級者の思考を映像の上に表示し、適切なコーチングを実施するための学習基盤を構築した。

スキル使用 0:30

包括性	見る	話す	触れる
技術習得前:	見る	話す	触れる
技術習得後:	見る	話す	触れる

マルチモーダルなスキル使用
認知症ケアスキルの分析例:
ケア習得前後の比較



認知症ケア学習コンテンツ:
上級者の思考を可視化

② 当初予想していなかった意外な展開

- Webを活用した学習支援技術への反響が多く、スキルの実践度や数値情報による見える化に期待する現場が多くあることが分かった。
- 気づきのポイントがコンテンツを介すことによって伝わるため、コンテンツを介した学習の方が学習者が納得しやすく、忙しい現場での学びに有効である。
- 研究の取組がメディア(NHKクローズアップ現代、NHKあさイチ)で取り上げられ、情報学が現場をどのように支援できるかアピールすることができた。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

- EVCをさらに発展させ、ケアの科学化の進展により、認知症ケアの高度化が急速に進むと期待している。
- 研究成果はWebの啓発技術を活用し、認知症に関する適切な情報を発信する **認知症アシストフォーラム** (<https://ninchisho-assist.jp/>)

